

米づくり情報（NO. 2）

令和6年6月17日

伊万里・西松浦地区農業技術者連絡会作物部会

1 気象概況（アメダス観測地：伊万里）

月	半旬	平均気温		最高気温		最低気温		降水量		日照時間	
		平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 mm	本年値 mm	平年値 時間	本年値 時間
5月	6	20.1	19.8	25.5	25.0	15.2	14.6	26.1	130.0	36.1	24.5
6月	1	20.6	19.4	25.8	24.7	16.3	14.5	24.3	0.0	27.1	50.7
	2	21.3	21.7	26.1	26.9	17.3	18.5	33.7	50.5	24.1	16.8
	3	21.9	24	26.5	29.6	18.2	19.7	48.2	0.0	22.1	45.7
	4	22.4	—	26.8	—	19.0	—	67.9	—	19.6	—
	5	23.1	—	27.1	—	20.0	—	85.9	—	16.0	—
	6	24.0	—	27.7	—	21.1	—	95.6	—	14.1	—

【6月3半旬の気象概況】

- ・気温は平年より2.2℃高く、日照時間も多い。雨は降らなかった。
- ・気象庁が6月17日に梅雨入りしたと発表。平年より13日、去年より19日遅い。

2 生育状況（6月17日）

項目 品種(設置場所)	年次	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	主稈出葉数 (L)	葉色 SPAD	概要
夢しずく 5/23 移植 東山代町脇野	本年値	28.9	163	6.9	34.3	<ul style="list-style-type: none"> ・草丈は、平年より低い ・茎数は、平年並 ・主稈出葉数は平年並 ・葉色は平年より淡い
	平年値	32.4	209	6.8	39.4	
	平年比	89%	78% (実質104%)	+0.1	-5.1	

※本年は、3本/株移植としたため、茎数の本年値が少ないが、実質平年比104%程度。

3 今後の管理

1) 山間早植え水稻（5月上旬移植）

- ・ 現在、中干しの時期を迎えている。
- ・ 梅雨入りし、曇天の日が続くことが予想されるため、「いもち病」等の病害虫の発生に注意する。特にいもち病常発地では発生状況を確認し、病斑が確認された場合は速やかに防除を実施する。

2) 普通期水稻「夢しずく」

- ・ 分けつ期を迎えている。水管理は浅水管理とし、分けつの発生促進に努める。
- ・ ガス対策として移植後15日、25日頃は夜干しなどを行い、根の活力を高める。
(ただし、用水確保が難しい地域では落水せずに湛水状態を保つようにする。)
- ・ 有効茎（1株当たり20本程度）が確保できた圃場から順次中干しに移行する。

- 中干しは約 1 週間行い、土壌表面に軽い亀裂が入り、足跡がわずかにつく程度とする。
- 中干し後は間断灌水を行う。なお、強い中干しとなった圃場（土壌が白乾し、手が入るほどの亀裂がある）では、一端通水し、ならしをしてから間断灌水に移行する。
- 移植後に湛水状態が保てず、除草剤処理後の水管理が徹底できなかった圃場では、ヒエ、コナギやホタルイ等の雑草の発生が予想されるため、雑草の発生状況を確認し、中後期除草剤による防除を行う。

3) 普通期水稻「たんぼの夢」、「ヒノヒカリ」等

- 除草剤処理後 1 週間経過した圃場は、浅水管理に移行し莖数確保に努める。
- スクミリンゴガイが多い圃場は、速やかに浅水管理とし、スクミノン等での薬剤防除を徹底する。
(移植直後と移植後 1 週間後の 2 回散布で効果が高い)

※除草剤は、散布後 3 日経過すれば有効成分が土壌に吸着される。除草剤の処理層が破壊されないよう水尻を止水して湛水状態を保ち、自然落水によって田面が見えてきても 1 週間は入水しない。
ただし、除草剤散布後 24 時間以内に、大雨等によりオーバーフローした場合、1 週間後の雑草発生状態を確認し除草剤効果が期待できない場合は、中後期剤等による防除を行う。

4) 共通

★(スクミリンゴガイ)★



佐 農 技 防 第 250 号
令和 6 年(2024 年)6 月 5 日

病害虫発生予察注意報第 2 号

佐賀県

作物名：普通期水稻

病害虫名：スクミリンゴガイ

1. 注意報の内容

発生地域：県内全域

発生量：平年より多い

2. 注意報発令の根拠

1) 越冬生貝率の予測

前年 12 月～当年 2 月の平均気温は 8.7℃(アメダス、佐賀)で、過去 10 年では令和 2 年(8.9℃)に次いで高く、越冬生貝率は高いと推定される(令和 6 年 5 月 21 日付病害虫対策資料第 5 号参照)。

2) 定期調査等での発生状況

(1) 早期水稻における調査結果(5 月 17 日)では、1 m²あたりの平均生息数は 6.8 頭で、平年(令和 2～5 年の 4 年平均値)の 2.1 頭より多い。また、多発圃場では、本種による食害を認めた。

(2) 山間早植え水稻(5 月移植)において、一部の圃場で本種の多発及び食害を認めている。

3) 気象予報

九州北部地方の 1 か月予報(福岡管区気象台、5 月 30 日発表)では、向こう 1 か月の降水量は平年並か多いと予想されており、移植後に多雨となった場合、薬剤の効果低下するとともに浅水管理が困難となり、移植苗が本種に食害される恐れがある。

3. 防除対策

1) 水深 1cm 程度の浅水管理とする。

2) 水口や水尻、作溝に集まった本種を捕獲する。

3) メタアルデヒド剤等の登録薬剤を処理する。

4) 稚苗や密苗は本種による食害を受けやすいので、特に対策を徹底する。

【メタアルデヒド剤の使用上の留意点】

①は種または移植後に本種を確認したら、直ちに散布する。

②散布後 7 日間は、落水やかけ流しはしないこと。

③本剤の残効は深水管理で短くなる傾向が認められるため、処理後は浅水管理等の耕種的防除と組み合わせる。

④1 回目の散布後も発生状況に留意し、必要に応じて追加散布する。

農業技術防除センター提供

- 6/5 に佐賀県農業技術防除センターから**病害虫発生予察注意報(水稻・スクミリンゴガイ)**が発表されている。
- 6/17 に梅雨入りし、今後、雨量が増え、被害の拡大が懸念される。浅水管理と薬剤防除を組み合わせ、スクミリンゴガイによる被害を抑える(別添資料参照)。
- 田植同時除草剤については、適正な水管理ができないため、なるべく使用を避ける。使用する場合は、除草剤散布と同時または散布直後に、メタアルデヒド剤(スクミノン)などを必ず散布(施用後は要湛水)する。

(いもち病)

BLASTAM情報第1号(葉いもち感染好適条件の出現状況)(2024年6月13日更新)

月	日	佐賀				福岡			長崎	
		唐津	伊万里	佐賀	嬉野	白石	前原	太宰府	久留米	松浦
6月	1日	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	2日	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	3日	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	4日	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	5日	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	6日	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	7日	—	—	—	—	●	●	—	1	—
	8日	4	—	—	—	—	—	—	—	—
	9日	4	●	—	●	●	●	●	●	—
	10日	●	●	—	—	●	●	●	●	—
	11日	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	12日	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	13日									
	14日									
	15日									
	16日									
	17日									
	18日									
	19日									
	20日									
	21日									
	22日									
	23日									
	24日									
	25日									
	26日									
	27日									
	28日									
	29日									
	30日									

葉いもち感染好適条件！

- 1：準好適条件（湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が20℃未満）
- 2：準好適条件（湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が25℃以上）
- 3：準好適条件（湿潤時間は10時間以上であるが、湿潤期間中の平均気温が15～25℃の範囲外）
- 4：準好適条件（湿潤時間が湿潤期間中の平均気温ごとに必要な時間数より短い）
- ：好適条件（湿潤時間が長く気温も適当で、葉いもちの感染好適条件が出現した）
- ：好適条件の出現なし
- ？：判定不能

BLASTAMの活用方法

- (1) BLASTAMは、気象条件(アメダスデータ)のみによって葉いもちの発生を予測するシステムである。しかしながら、実際の圃場における葉いもちの発生には、気象条件の外にも、菌の多少(密度)、イネ品種による抵抗性や体質、薬剤防除条件などが大きく関与している。したがって、BLASTAMは、あくまでも葉いもち発生予察の参考資料の一つとして扱う。
- (2) BLASTAMは、葉いもちを対象としており、稲の移植約20日後を起点とした35日間(6月15日移植の場合、7月5日～8月10日)が適用期間とされている。ただし箱施薬が行われた圃場では、その持続期間中はBLASTAMは使用できない。
- (3) 葉いもちは、菌の侵入から発病までの潜伏期間が約1週間である。そのため、BLASTAMによる感染(準感染)好適条件が現れた場合、感染株では約1週間後から初発生あるいは病斑数の急激な増加が予想できる。
- (4) BLASTAMによる感染(準感染)好適条件の出現回数が多いと、その地域の葉いもちの発生面積が増加し、発病程度も著しくなることが予想できる。

農業技術防除センター提供

6月13日までのBLASTAM情報(気象条件に基づいて葉いもちの発生を予測するシステム)によると、伊万里では6月9日および6月10日に感染好適条件が観測されている。感染好適条件から1週間後に急激に病斑が増加する恐れがあるため、今後は圃場の発生状況に注意し、進展型病斑が確認された圃場では、豆つぶ剤等で速やかに防除を行う。

- ・圃場内に放置されている補植苗は「いもち病」の温床になるためすみやかに除去する。



いもち病進展型病斑

(ウンカ類)

海外飛来性害虫情報第1号(ウンカ類・コブノメイガのトラップ捕獲状況) (2024年6月13日更新)

月 日	トビイロウンカ					セジロウンカ					コブノメイガ							
	佐賀県		長崎県			佐賀県		長崎県			佐賀県		伊賀県		長崎県			
	佐賀市 ネット トラップ	嬉野市 ライト トラップ	諫早市 ライト トラップ	諫早市 ネット トラップA	諫早市 ネット トラップB	佐賀市 ネット トラップ	嬉野市 ライト トラップ	諫早市 ライト トラップ	諫早市 ネット トラップA	諫早市 ネット トラップB	佐賀市 フェロモン トラップA	佐賀市 フェロモン トラップB	神埼市 粘着トラ ップ(20W 蛍光灯)	伊万里市 粘着トラ ップ(20W 蛍光灯)	白石町 粘着トラ ップ(20W 蛍光灯)	武雄市 粘着トラ ップ(20W 蛍光灯)	諫早市 フェロモン トラップA	諫早市 フェロモン トラップB
5月 22日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0	
5月 23日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0	
5月 24日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0	
5月 25日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0	
5月 26日	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0							0	
5月 27日	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0							0	
5月 28日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							0	
5月 29日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							0	
5月 30日	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0							0	
5月 31日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							0	
6月 1日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0	0	0	0	0	
6月 2日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							0	
6月 3日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							0	
6月 4日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							0	
6月 5日	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0			0	0	0	0	0	
6月 6日	0	0				0	0											
6月 7日	0	0				0	0											
6月 8日	0	0				0	0					0		0	0			
6月 9日	0	0				0	0											
6月 10日	0	0				0	0											
6月 11日	0	0				0	1											
6月 12日	0					0												
6月 13日																		
6月 14日																		
6月 15日																		
6月 16日																		
6月 17日																		
6月 18日																		
6月 19日																		
6月 20日																		
6月 21日																		
6月 22日																		

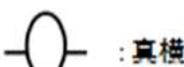
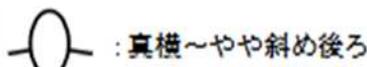
注1)ウンカ類:佐賀市のネットトラップは、農業試験研究センターで調査。嬉野ライトトラップ(予察灯)は農業技術防除センターで調査。
 注2)コブノメイガ:神埼市、白石町、伊万里市、武雄市は病害虫防除員が調査。佐賀市のフェロモントラップは農業試験研究センターで調査。
 ※長崎県のデータは、長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室提供。

農業技術防除センター提供

ウンカ類については、5月26日、27日、6月5日に佐賀市のネットトラップでセジロウンカが1頭ずつ捕獲されている。また、6月11日には嬉野市のライトトラップでセジロウンカが1頭捕獲されている。なお、トビイロウンカの飛来は、現在のところ確認されていない。

- 今後の飛来状況や圃場条件(移植時期や品種、圃場の場所等)によってウンカ類の発生量は異なるため、注意深く圃場を観察し、発生が多くみられる場合は速やかに防除を行う。

ウンカ類幼虫の見分け方について

	若齢幼虫の体色	中～老齢幼虫の体色	水面での後脚の出し方
セジロウンカ	白っぽい	灰白の斑紋	 :真横
トビイロウンカ	白っぽい	薄茶か茶褐色	 :真横～やや斜め後ろ
ヒメトビウンカ	黄褐色	淡黄色か薄茶か茶褐色 (体側の色が濃い場合あり)	 :斜め後ろ

(中干し)

○開始時期の目安

- 有効茎（1株当たり20本程度の分けつ）が確保でき、株が開張して草丈がおおむね35～50cmとなった頃から開始する。



左 18本 右 17本
(間もなく中干へ移行)



左 29本 右 23
(ただちに中干へ移行)

参考) 茎数の目安

○期間と程度

- 中干し実施期間は、5～7日とする。
- 中干しの程度は、軽く足跡がつき、小さなヒビが入る程度とする。
- (歩いて足跡がつくが、抵抗なく歩ける硬さが理想)。
 - ※ 土壌が白乾し手のひらが縦に入るようなヒビができる強い中干しは、断根を伴い稲のストレスとなるので避ける。ただし、過繁茂となっており、倒伏が懸念される場合は強めの中干しを行う。
 - ※ 中干し終了後は、急激に湛水状態にすると、酸素不足となり根腐れする場合がありますので2～3回走り水をしてから湛水する。



土壌表面に軽い亀裂が入る

参考) 中干し程度

○効果

(1) 土中への酸素供給による還元状態の解消

- 湛水状態が続くと酸素不足となり、土中が還元状態となる。還元状態が続くと、有機酸等の有害物質が発生し、根の活力が低下する。このため、落水し土中に酸素を供給することで還元状態を解消し、有害物質の発生を抑え根の健全化を図る。

(2) 窒素制限による稲体の生育調整

- 籾数過多による登熟不良や下位節間の伸長による倒伏を防止できる。また、稲体の窒素制限により無効分けつを抑制し、1茎あたりの充実を図る。

(3) 土壌の硬化

- 土壌を固めることで、稲株支持力向上により倒伏軽減が期待される。また、地耐力を高めコンバイン収穫の作業性を向上させる。

令和6年産水稻生育期間気象グラフ (アメダス：伊万里)

西松浦農業振興センター

